広報 すぎなみ

Suginami

みどり豊かな　住まいのみやこ

2/15
令和6年（2024年）
No.2372

苔（こけ）を生（む）すごとく 芸を深めて半世紀。

18歳で故・古今亭志ん朝の門戸を叩き、芸を磨くこと50年。今もなお落語への探求を続ける古今亭志ん輔さん。2月に開催される高円寺演芸まつりでは、初回から座・高円寺でトリの大役を務めています。志ん輔さんの半世紀に及ぶ落語家人生を振り返りながら、落語への思いなどをお聞きしました。

特集

人 すぎなみビト

落語家 古今亭志ん輔

〒166-8570 杉並区阿佐谷南1-15-1 ｜ 3312-2111（代表）FAX 3312-9911（広報課直通） ｜ 区ホームページ：https://www.city.suginami.tokyo.jp/ ｜ 発行：杉並区 ｜ 編集：広報課

「広報すぎなみ」は月2回（1・15日）発行。新聞折り込みでの配布のほか、区施設・区内各駅などの広報スタンドに置いています。入手が困難な方には個別配布をしています。ご希望の方は、電話・ファクス・Eメール・LoGoフォームからお申し込みください。

詳細は、区ホームページ（右2次元コード）をご覧ください。

落語を道具にして、お客さんと空間 を共につくっていく時間が楽しい

プロフィール：古今亭志ん輔（ここんてい・しんすけ） 昭和28年東京都品川区生まれ。47年3月、故・古今亭志ん朝に入門。前座名は「朝助」で、同年4月に演目「時そば」で初高座。52年3月二ツ目に昇進し、志ん朝の前名「朝太」を襲名。60年9月に真打昇進で「志ん輔」を襲名。NHKテレビ「おかあさといっしょ」では15年間にわたりレギュラーを務めた。平成12年から新日本フィルハーモニー交響楽団とのファミリーコンサートに出演。現在、落語協会相談役。

高校2年生で「この人の弟子になる」と入門を決心した

―落語に触れるようになったきっかけは何ですか？

最初は中学生のときにテレビでやっていた寄席の番組。家族が寝た後、夜遅くによく見ていて、「落語って面白いもんだなぁ」なんて思っていました。高校生になってバスケットボール部に入りましたが2週間で辞めて、その後落語研究会に入りました。あるとき、先輩からチケットをもらって見に行ったのが、師匠となる古今亭志ん朝の寄席でした。

―志ん朝師匠の落語を初めて見たときの印象はいかがでしたか？

師匠は、その頃メディアへの露出が多くて、私は正直あまりいい印象を抱いていなかったんです。タレント芸人じゃないかと。ところが舞台に出てきた師匠を見て驚きました。背中に光をまとっていて、なぜか師匠の周りだけ明るかった。その日の演目はおはこの「火焔太鼓（かえん）」で、私はすっかり魅せられてしまい、終わったときには「この人の弟子になる」と決めていました。

―その後、どのような道のりを経て入門に至ったのですか？

師匠の家は分からなかったので、まずは電話帳に載っていた師匠の実家（5代目・古今亭志ん生）へ行きました。初めて行った日は、雪がしんしんと降っていたことを覚えています。呼び鈴がなかったので大きな声で声をかけると、長女の美津子姉さんが出てきて「弟子は取っていない」と断られ、その後も進展せず。ただ、師匠の家が神楽坂にあることを教えてもらえたので、次は神楽坂への日参を始めました。でも、そちらでもおかみさんに断られるばかり。そんな私を見兼ねた兄弟子が、楽屋へ行けば師匠に会えるとこっそり教えてくれて、ようやく直談判がかないました。師匠には、弟子になっても落語家として食えるか分からないからやめておいた方がいいと諭されましたが、「それでもいい」と伝えると入門を許可されました。まもなく高校卒業を控えた3月のことでした。

―師匠の下で過ごした時期を改めて振り返るとどのように感じますか？

通い弟子として毎日師匠の家に通い、師匠のそばにいるとそれだけでウキウキしましたね。今は、弟子入り＝就職あるいは学校、という感覚の人が多いように思いますが、その頃の弟子と師匠というのは、学校のように何かを教えるという関係性ではありませんでした。師匠と同じ空間で同じ空気を吸う中で、自分が何をつかみそれをどうしていくかという世界。師匠から学んだことはたくさんあるのに、いざ自分が弟子を取る立場になって、何も教えるものがないと気付いたときは驚きました。ただそばにいるだけでいいという時代は、ありがたかったのだなと思います。

―師匠との別れは、思いがけず急な出来事として訪れたそうですね。

師匠に肝臓がんが発覚してから、あっという間の別れでした。だから何がなんだかよく分からない感覚で。でも、師匠が63歳で亡くなったのだから自分だってその歳で死ぬこともあり得る。そう考えると、自分も残りは短いのだと思うようになりました。それからは、毎日分刻みに予定を立てて落語に向き合う、ストイックな生活が始まりました。人と話すのもばかばかしいと思えてきて、当時の自分はずいぶん気難しかったと思います。それが、師匠の十三回忌を迎える頃、もういいんじゃないのかという声が聞こえたのかもしれません。気持ちが変わっていって、少しずつそのストイックな生活が溶けていきました。

探求し続けることをやめない。高座はいつも全力で

―長い噺（はなし）家人生の中で、落語そのものに対する見方や感覚に変化はありましたか？

以前は、高座は自分の持っているものをお客さんにぶつける場だと捉えていましたが、今は違います。今は、落語というものを道具にして、お客さんと共に空間をつくっていこうという気持ち。一方的に与えるのではなく、お客さんを取り込んでない交ぜにして、落語を通して一つの空間を共有していくのがいいなと思っています。それが私も楽しいし、お客さんも楽しいんじゃないかと思うのです。

―長くやっている演目でも、表現が少しずつ変わるなど変化はありますか？

いまだに、この一言は本当にこれでなければならないのか？　と自問する瞬間はありますよ。長年使ってきた一言を変えることで、こういうことだったのか！　とドミノ倒しのようにいろんな言葉が変わることもあります。ずっと師匠の落語をどうにか自分のものにしようとしてきましたが、どうしたって形にできないものもある。やればやるほど情けなくなる。そういうものは捨てていくしかない。私はよく芸を身に付けるのに「苔（こけ）なら生したほうがいい、垢（むく）なら落としたほうがいい」という表現を使いますが、これは自分が付けてきたものが苔ではなく垢だったと気付いたら、洗い落として、そこに自分の苔だと思うものを少しずつ生していくしかないのです。

▲浅草演芸ホールでの寄席の様子

―志ん輔さんほどのキャリアでも落語がうまくいかないときはありますか？

もちろん、そんなことは山ほどあります。でも、逃げるのは性に合わない。高座に上がるときはいつも全力で挑みます。お客さんがなかなか乗ってこないときも、投げたりしないで100％の力でやります。中途半端なことが嫌いなので、100点か0点。そういう性格は、もしかしたら芸人には向いていないのかもしれません。探求していくことに飽きてしまったらおしまいだと思っていて、飽きたらあとはさびるだけ。そうならないように、時々エンジンを吹かすこともしながら、せめてアイドリング状態は保ち続けていこうと思っています。

高円寺演芸まつりは芸人として鍛えられる良き鍛錬の場

―志ん輔さんは中野区に長くお住まいで、杉並区とも縁が深いそうですね。

杉並区はなじみのエリアです。高校も中央線沿線にあったので友達も多く、何かと思い出の多いまちです。特に、私は善福寺川沿いの桜並木が好きで、ただ散歩したり自転車で通るだけで、気持ちが良いですよね。春になって、満開の桜を下から見上げるのも最高です。

―現在開催中の高円寺演芸まつりに初回から毎年高座に上られていますね。

高円寺演芸まつりの立ち上げに尽力された、故・柳家紫文さんとのご縁で出演するようになり、座・高円寺の舞台のトリを務めてきました。毎年、新しい手帳の2月の欄に「座・高円寺」と書き込むと「ああ、そんな季節か」と思います。例えばヨーロッパのまちで、小さなコンサートがたくさん開かれる期間があったりしますが、言ってみれば高円寺演芸まつりもそういうものですよね。そのようなイベントを、しかも演芸で実現してしまう。高円寺というまちは大したもんだなと感心します。発想そのものもすごいし、実際に実現するためにはかなりのエネルギーが必要でしょう。そういったイベントを応援できる杉並区にはおおらかさを感じます。

―今年の座・高円寺での高座にも期待が高まります。

演芸まつりに来場する座・高円寺のお客さんは毎年雰囲気が違っていて読めない部分があり、芸人としては毎年鍛えられる良き鍛錬の場です。昨年は思いきって、新しい挑戦となるような演目を選びました。今年は何をやるのか、ぜひ楽しみに会場へいらしてください。私もまた高円寺で高座に上がれることを楽しみにしています。

古今亭志ん輔さんも出演します！

高円寺演芸まつり「座・高円寺寄席」

寒い季節は、みんなで笑って心も体も温まりましょう！

日時 2月17日㊏①午後5時
18日㊐②午後1時③5時

場所 座・高円寺（高円寺北2-1-2）

内 **出演**＝①林家彦いち、立川談笑ほか②神田愛山、旭堂南海ほか③古今亭志ん輔（右写真）、桂文治ほか **定** 各256名（申込順） **費** 各3500円（区民割各3000円〈窓口のみ取り扱い。区民である証明書持参〉）。中学生以下各1000円 **申** 電話または直接、座・高円寺チケットボックス☎3223-7300（午前10時～午後7時。電話は6時まで〈いずれも月曜日を除く〉）。または同施設ホームページ（右2次元コード）から申し込み **問** 高円寺演芸まつり実行委員会☎050-3551-5569

YouTubeで配信中！

すぎなみビト MOVIE

すぎなみビト「古今亭志ん輔さん」のインタビュー動画を、右2次元コードからご覧いただけます。

杉並区公式チャンネル

すぎなみビト…区内外で活躍する区民などの紹介を通して、地域の魅力を発信していきます（毎月15日号に掲載）。